

[1] 新会長挨拶

岡 二三生

伝統ある京土会の会長にただいま推挙されました岡でございます。大変光栄に存じますとともに、皆様のご指導ご協力のもの重責を果たすべく努力する所存ですのでよろしくお願いいたします。



私、土木工学科を昭和47年に卒業しました。この京土会に接したのは、入学時の園遊会であったとおもいます。会報を手にしたのは、3回生のときでした。手元にその時の会報No.8が残っており、1970年で会長は岩佐義朗先生でした。昨年の会報が47号ですが、会報は、実は1969年には発行されていません。これは大学紛争のせいでした。

その年から40年がたったわけです。内容を見ますと、同窓会の規模も人数も約10倍となり発展してきております。カリキュラム改革に関連して科目配当表などがのっております。現在も教育改革がなされているわけですが、当時から常に教育改革が行われてきたわけです。

同窓会につきましては先日、工学部同窓会の評議員役員会が開かれました。この会は、工学部の各科、各専攻、学科の14の同窓会の連携の会として、工学部全体で3万人を超える同窓生が所属しております。2008年に設立され、大学全体の同窓会に属しております。今年から2年間の会長は、先輩の鹿島建設会長の梅田貞夫様です。副会長として大西名誉教授が参加されております。私も今年からお世話をさせていただきます。大学としては、大学全体の名簿作成やホームカミングデーの開催などが行われる予定になっております。今年のホームカミングデーは11月13日(土)で、時計台記念館で開かれます。講演などいろいろな行事も企画されておりますのでご出席よろしくお願い申し上げます。

さて、この京土会は土木工学の発展と会員相互の親睦が目的となっておりますが、土木工学につきましては、公共事業に対する誤解などがあり、苦しい状況にあります。現在技術開発に関して、グリーンイノベーションやライフイノベーションが国家戦略として取り上げられておりますが、このような発展のためのインフラの作り直しには社会基盤はさきわめて重要であり、社会基盤についても技術発展こそが今後の持続的な発展のキーポイントであると思っております。

おります。また、グリーンイノベーションに関しましても、英国のカーボントラストの調査結果では、たとえば低炭素対応が成功する場合の期待最大収益率は建設住宅部門が1番で80%、2番が家電で60%となっていますように、成長にとっても重要です。また、国内のみでなく、海外でのインフラの建設も非常に重要です。改革すべき点も多いと思いますが、このようなポジティブな面を育て、土木工学の発展のため、卒業生の方々を始め大学業界全体で取り組んで行く必要があると思います。

最後に、大学の国際化について報告させていただきます。先ほど杉浦教授の方から詳しい説明のありました国際化プロジェクトG30（グローバル30）ですが、これは、国際化を進めるため学部から留学生を英語で教育するプロジェクトでして、実際には学部30名の地球工学科国際コースを設置しました。今年夏に入試を行い来年4月に学生が入学してきます。このコースには日本人の学生も入学することができますし、大学院にも12名の国際コースが設置されました。このコースを卒業した学生が国内外で活躍し、国際化に貢献してくれることを願っております。ここで、お願いなのですが、このコースには奨学金がついておりません。大学でも努力していただいているのですが、皆様からの寄付で学資の一部にと寄付をお願いすることになりました。寄付のお願いはすでに会報とともにお手元に届いていると思いますが、ご協力をお願いいたします。寄付のお願いの書類のなかに寄付のメリットとして国際ネットワークのリストがのっております。約300を超える海外の機関や大学のリストですが、このリストが会員の皆様のお仕事の国際化のお役に立つことを願っております。

最後に、1年間重職をやり遂げたいと思っております。土木工学の発展を願い、また、会員の皆様のご健康、ご発展をお祈りしまして私の挨拶とさせていただきます。